

想ひ深き越え強き母 矢田亜希子

5年ぶりドラマ主演



撮影現場
の様子を笑顔で振
り返る矢田亜希子
(撮影・下田雄一)

携帯映像配信

女優矢田亜希子（31）が、5年ぶりにドラマ主演することが27日、分かった。携帯電話auの映像配信コンテンツ「LISMOドラマ」の「空にいちばん近い幸せ」（12月3日配信開始）で、初の母親役に挑む。05年の連続ドラマ「夢で逢いましょう」以来の主役。矢田が演じるのは、初産と同時にその長男を失い、その悲しい過去を乗り越えて数年後に長女を出産、育児するという役だ。

長男育て仕事

矢田は、「私も妊娠後に人生觀が変わったので、今回の役に共感できました。不安と楽しみをいっぱい抱える一方で、母性本能が膨らんでくる。自分の人生の主役は私じゃなかった。最優先するのは、この子だったんだって実感しているんです」と話す。スポットライトを浴びた女優が、母に変化していった当時を振り返った。

現在は、両親とともに2歳11ヶ月の長男を育てながら、仕事をしている。「私が仕事から帰ると、さみしかったんでしょうね。わざとプライドを捨てたりするんです。子を授かり、健康で過ごせる日々が奇跡で、こんなに楽しいことはないです。半日会わないだけで、成長してるんです。このまま健康で、絶対にウソはつかない人に、優しい子に育つて欲しいです」とほほ笑んだ。

まぶしい笑顔

今は、矢田が言うような「生まれた奇跡」をテーマとした物語同じテーマで描かれる、作家海堂尊氏原作の医療ミステリー映画「ジーン・フルツ」（菅野美穂主演、2月5日公開）の関連作品だ。「約5分のドラマですが、カメラワークにもこだわって、物語も分かりやすく、感情を伝えられる内容です」。矢田は、徹夜の撮影明けにもかかわらず、朝日のようにまぶしい笑顔だった。